

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和7年9月19日(金)
感染症対策センター
(衛生環境研究所)

令和7年第32週から第35週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(急性呼吸器感染症(ARI)定点の急性呼吸器感染症を除く。)

今回(32週～35週)4週 (R7.8.4～R7.8.31)	前回(28週～31週)4週 (R7.7.7～R7.8.3)	前々回(24週～27週)4週 (R7.6.9～R7.7.6)
1 新型コロナウイルス感染症 (785) [↑ 511]	1 感染性胃腸炎 (381)	1 感染性胃腸炎 (396)
2 感染性胃腸炎 (366) [↓ 15]	2 新型コロナウイルス感染症 (274)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (224)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (162) [↓ 35]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (197)	3 新型コロナウイルス感染症 (52)
4 マイコプラズマ肺炎 (48) [↑ 13]	4 ヘルパンギーナ (178)	4 伝染性紅斑 (46)
5 ヘルパンギーナ (47) [↓ 131]	5 伝染性紅斑 (76)	4 ヘルパンギーナ (46)
6 その他 (154) [↑ 2]	6 その他 (156)	6 その他 (125)
(合計 1,562)	(合計 1,262)	(合計 889)

※急性呼吸器感染症(ARI)定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数である。
※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減(急性呼吸器感染症(ARI)定点の急性呼吸器感染症を除く。)

増加した疾病	減少した疾病
新型コロナウイルス感染症 186%	ヘルパンギーナ 74%
マイコプラズマ肺炎 37%	伝染性紅斑 41%
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 18%
	感染性胃腸炎 4%

3 急性呼吸器感染症(ARI)報告数

第32週から第35週の患者報告数は、5,488件であった。

<急性呼吸器感染症(ARI)サーベイランスとは>

咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例に一致する患者数の発生を把握する症候群サーベイランスです。

なお、急性呼吸器感染症(ARI)の症例定義を満たし、さらに別の定点把握対象感染症で診断された場合、両方に報告されます。

4 コメント

【新型コロナウイルス感染症】

7月以降増加傾向であり、集団感染事例も散発しています。手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。

【百日咳】

小中学生を中心に患者報告が続いており、感染者数は既に昨年の年間報告数のおよそ1.5倍となっています。長く続く咳が特徴で、感染力が非常に強いため、注意が必要です。有効な予防法は予防接種であり、乳幼児期に定期接種を受けることが重要ですが、ワクチンの免疫効果は4～12年で弱まってくるといわれており、接種済みの方でも感染することがあります。ワクチン未接種である新生児や早期乳児が感染すると重症化しやすいため、赤ちゃんや妊産婦のおられるご家庭では、周囲の家族などが感染源とならないよう特に注意してください。咳などの症状がある場合は早めに受診し、手洗い、マスクの着用、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

【マイコプラズマ肺炎】

全国的に感染者数が増加しており、本県においても7月以降増加しています。手洗い、咳エチケット及びタオルの共用を避けるなどの感染予防をお願いします。

【伝染性紅斑】

県内全域の警報を7月に解除しましたが、全国では流行が継続しており、県内でも一定数の患者報告が続いています。特に、妊娠中に感染した場合、胎児へ影響する可能性があるため、注意が必要です。飛沫や手指を介して感染し、原因となるウイルスはアルコールが効きにくいため、手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

【感染性胃腸炎】

感染者数が多い状況であり、注意が必要です。原因となるウイルスはアルコールが効きにくいため、トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前などには、手洗いを徹底しましょう。感染した人の便や吐物を処理する場合には、ゴム手袋やマスクを着用し、処理後の床や感染した人が触れた物などは、塩素系の消毒剤を使用して消毒しましょう。

【ダニ媒介感染症】

ダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群(SFTS)と日本紅斑熱の患者が報告されているため、注意しましょう。マダニは春から秋にかけて活発となることから、野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが必要です。

【梅毒】

令和6年は過去最多の41件、令和7年も8月時点で22件の感染が報告されており、引き続き注意が必要です。感染した場合は、適切な治療が必要であり、早期発見することで感染症拡大防止につながります。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

令和7年第32週～第35週の報告患者数

令和7年9月3日 作成

区 分		今回報告患者数 第32週～第35週(4週分)					前回報告患者数 第28週～第31週(4週分)				前々回報告患者数 第24週～第27週(4週分)				前回比 増 減	令和7年 患者数 累 計
		東部	中部	西部	計	増減	東部	中部	西部	計	東部	中部	西部	計		
		(12)	(6)	(11)	(29)		(12)	(6)	(11)	(29)	(12)	(6)	(11)	(29)		
急性呼吸器感染症(ARI)定点数		(12)	(6)	(11)	(29)		(12)	(6)	(11)	(29)	(12)	(6)	(11)	(29)		
1	インフルエンザ	1	5	17	23	18	0	0	5	5	4	4	5	13	360%	3,854
2	新型コロナウイルス感染症	267	237	281	785	511	85	62	127	274	16	21	15	52	186%	3,657
小児科定点数		(8)	(4)	(7)	(19)		(8)	(4)	(7)	(19)	(8)	(4)	(7)	(19)		
3	咽頭結膜熱	4	1	7	12	-9	14	5	2	21	9	10	4	23	-43%	188
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	102	22	38	162	-35	105	25	67	197	145	35	44	224	-18%	2,152
5	感染性胃腸炎	164	117	85	366	-15	177	107	97	381	227	80	89	396	-4%	3,861
6	水痘	1	1	9	11	-15	5	6	15	26	6	5	11	22	-58%	188
7	手足口病	0	2	1	3	-17	13	6	1	20	6	3	2	11	-85%	69
8	伝染性紅斑	23	10	12	45	-31	50	13	13	76	33	7	6	46	-41%	481
9	突発性発疹	8	3	5	16	3	2	5	6	13	10	3	5	18	23%	120
10	ヘルパンギーナ	20	21	6	47	-131	84	81	13	178	9	17	20	46	-74%	284
11	流行性耳下腺炎	0	1	0	1	-6	1	2	4	7	3	2	0	5	-86%	18
12	RSウイルス感染症	11	8	7	26	2	14	3	7	24	4	3	5	12	8%	271
眼科定点数		(2)	(1)	(2)	(5)		(2)	(1)	(2)	(5)	(2)	(1)	(2)	(5)		
13	急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	1
14	流行性角結膜炎	7	1	7	15	12	2	0	1	3	0	0	4	4	400%	49
基幹定点数		(2)	(1)	(2)	(5)		(2)	(1)	(2)	(5)	(2)	(1)	(2)	(5)		
15	細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	4
16	無菌性髄膜炎	1	0	1	2	0	2	0	0	2	1	0	0	1	0%	13
17	マイコプラズマ肺炎	20	25	3	48	13	11	15	9	35	5	6	4	15	37%	161
18	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
19	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	—	12

※中部の基幹定点数は小児科定点と共通のため、感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)の件数は感染性胃腸炎の内数となります。

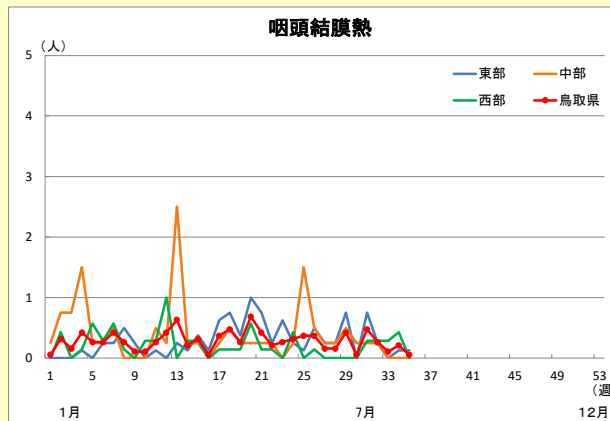
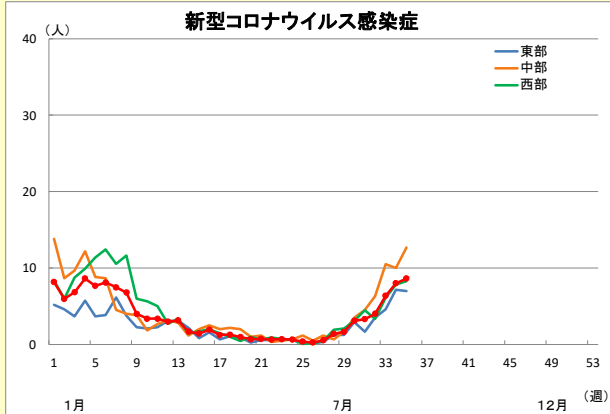
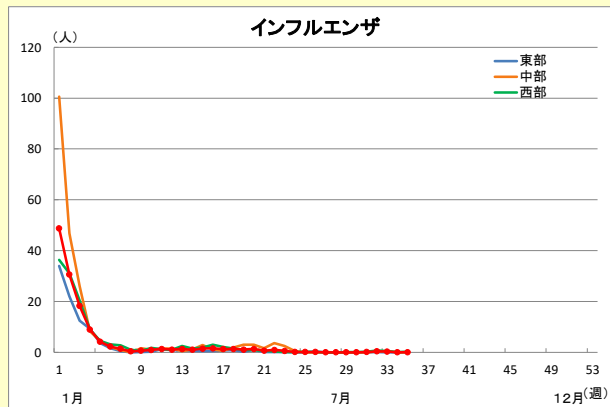
急性呼吸器感染症(ARI)定点数	(12)	(6)	(11)	(29)		(12)	(6)	(11)	(29)	(12)	(6)	(11)	(29)		
20 急性呼吸器感染症(ARI)	2,144	1,464	1,880	5,488	176	2,132	1,219	1,961	5,312	2,148	1,259	2,292	5,699	3%	31,782

※急性呼吸器感染症(ARI)の症例定義を満たし、さらに上記の他疾病で診断された場合、両方に報告されています。

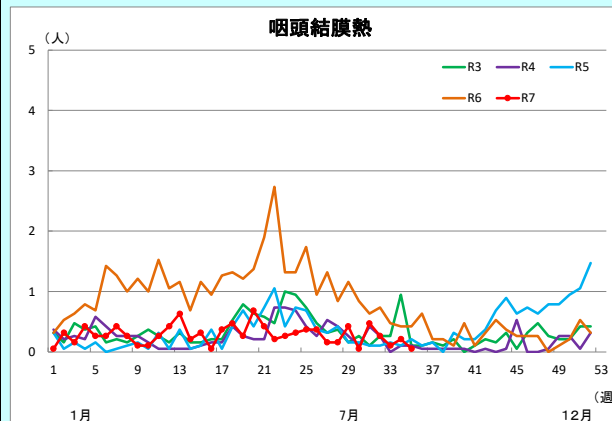
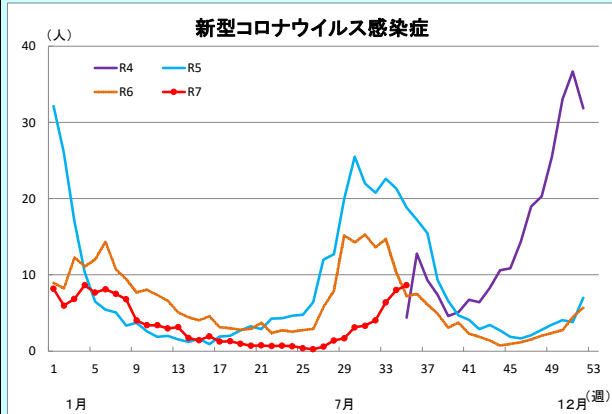
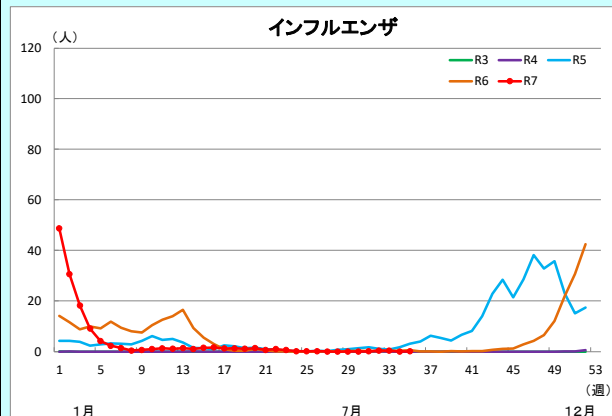
合 計	2,773	1,918	2,359	7,050	476	2,697	1,549	2,328	6,574	2,627	1,455	2,506	6,588	7%	47,165
-----	-------	-------	-------	-------	-----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	----	--------

※令和7年4月7日から急性呼吸器感染症(ARI)が追加され、「インフルエンザ/COVID-19定点」は「急性呼吸器感染症(ARI)定点」に変更されました。

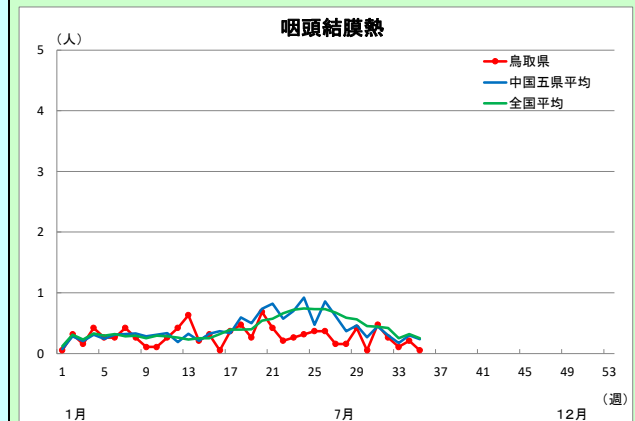
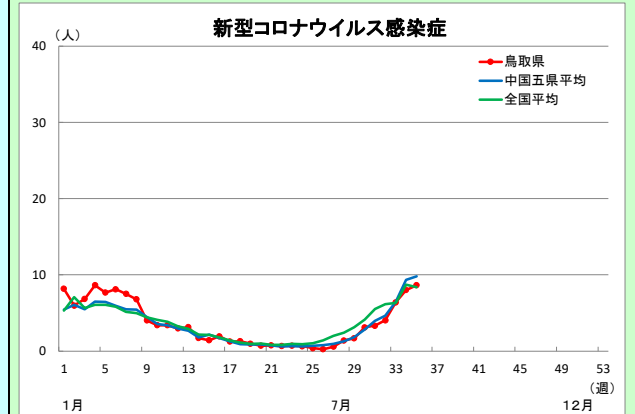
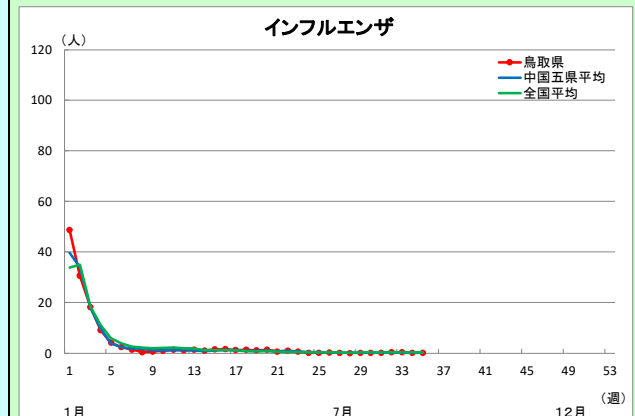
地区発生状況(定点当たり)



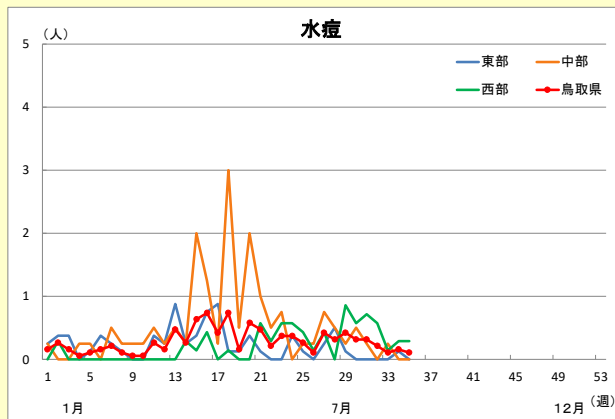
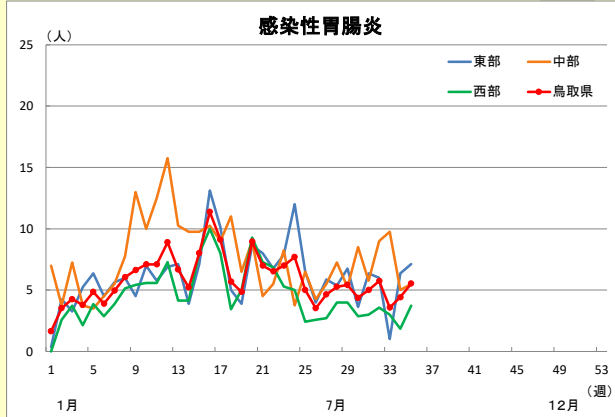
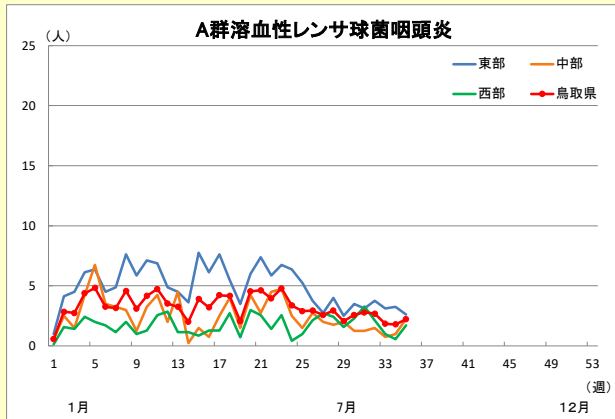
年次別発生状況(定点当たり)



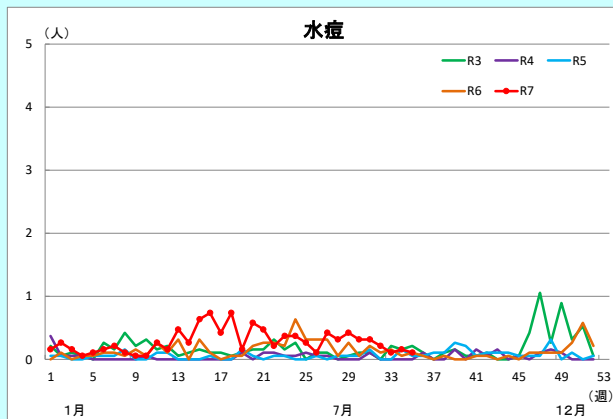
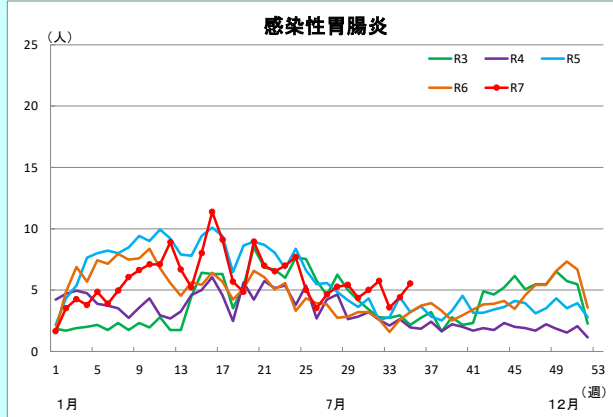
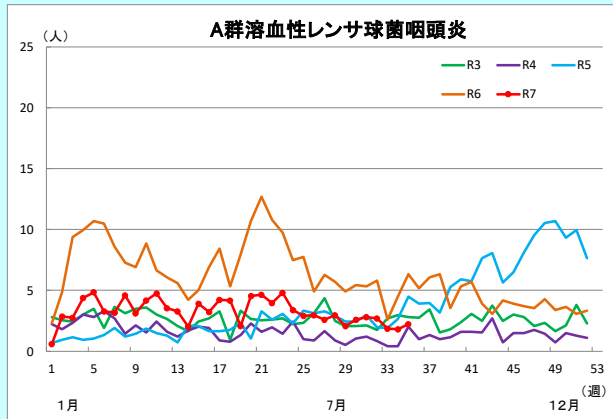
中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)



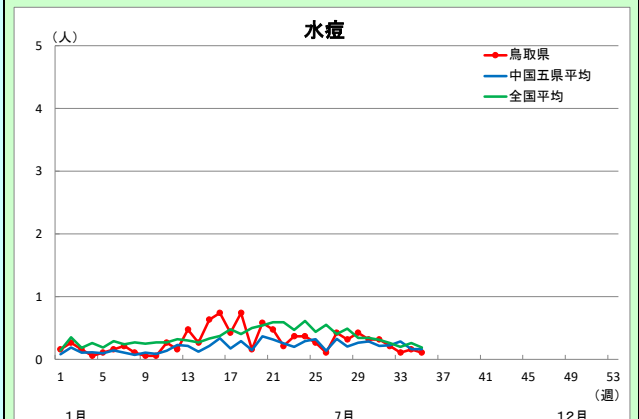
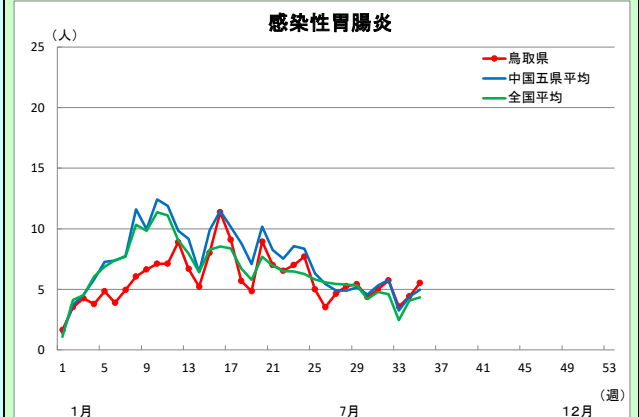
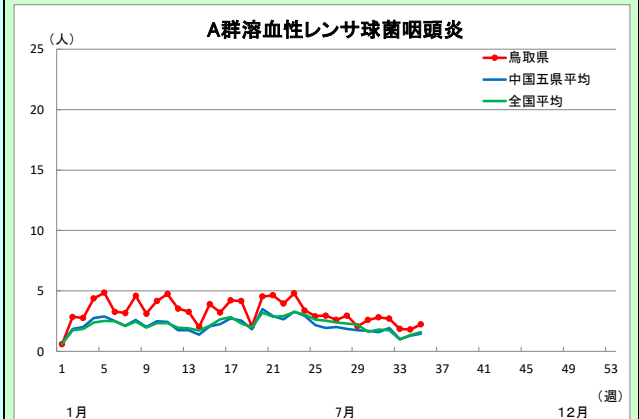
地区発生状況(定点当たり)



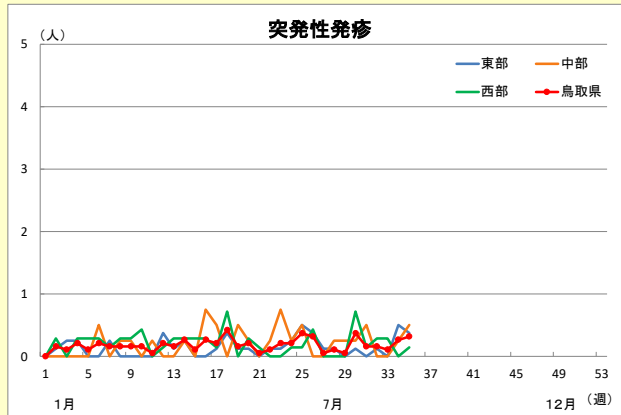
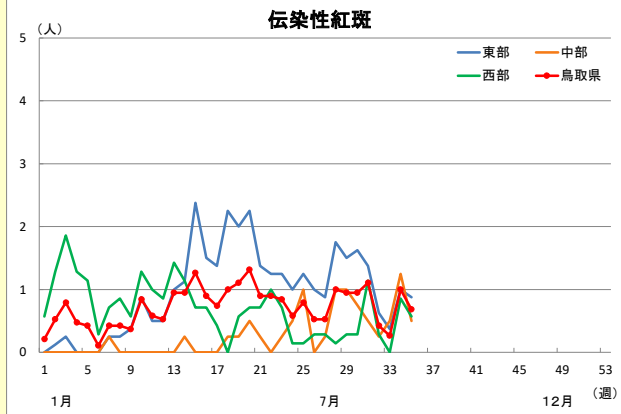
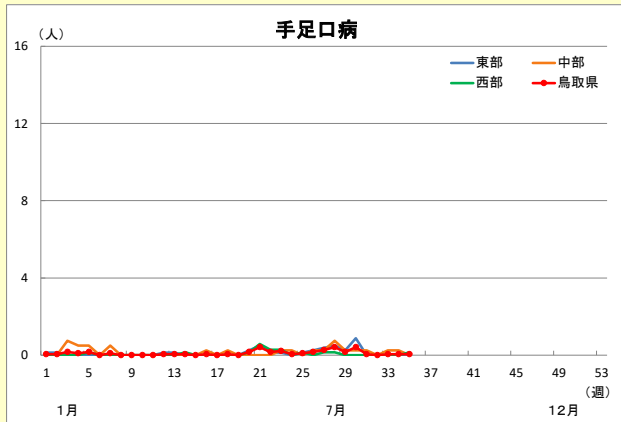
年次別発生状況(定点当たり)



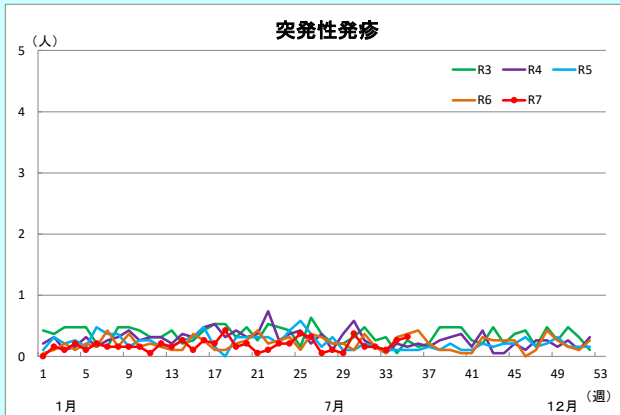
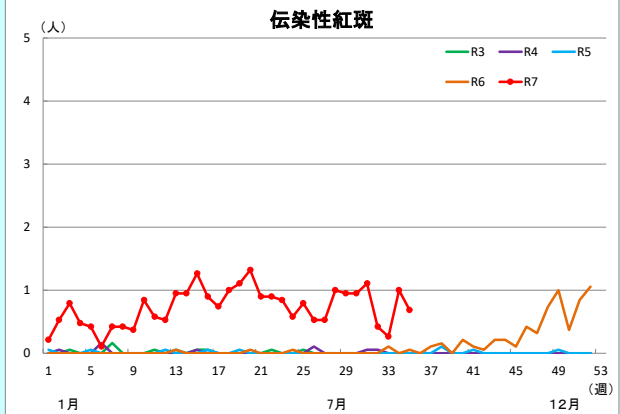
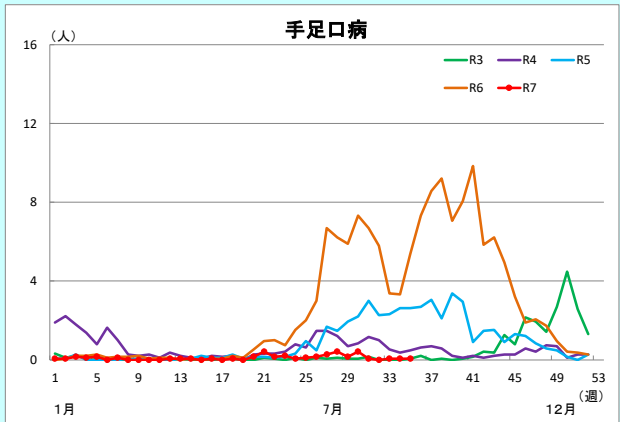
中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)



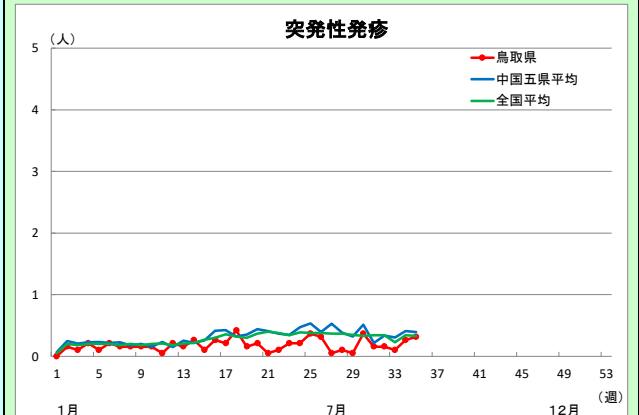
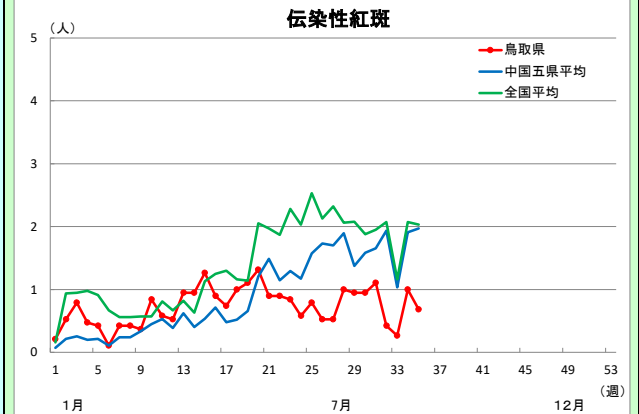
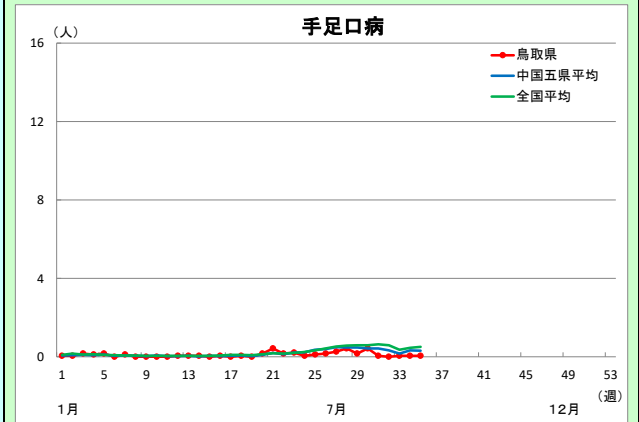
地区発生状況(定点当たり)



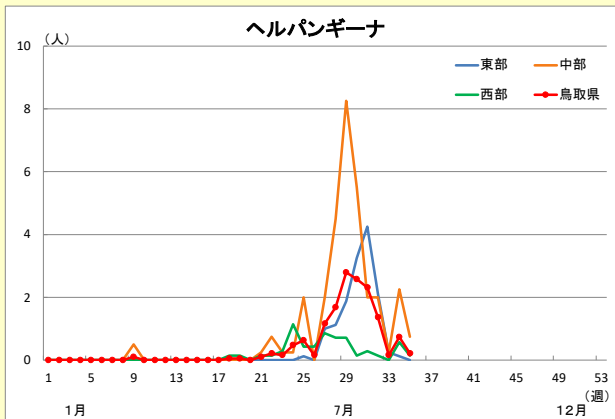
年次別発生状況(定点当たり)



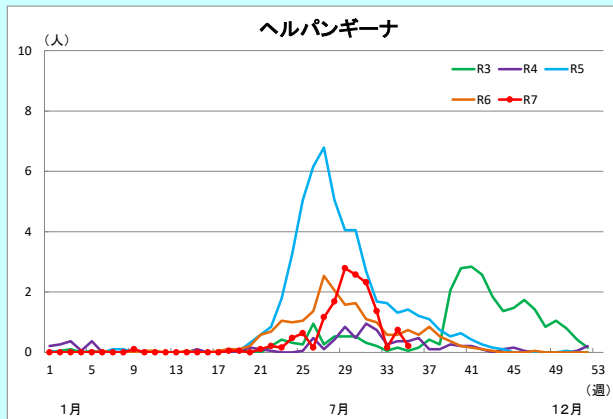
中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)



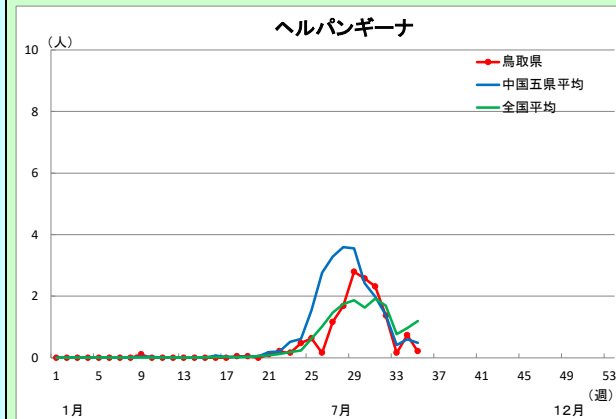
地区発生状況(定点当たり)



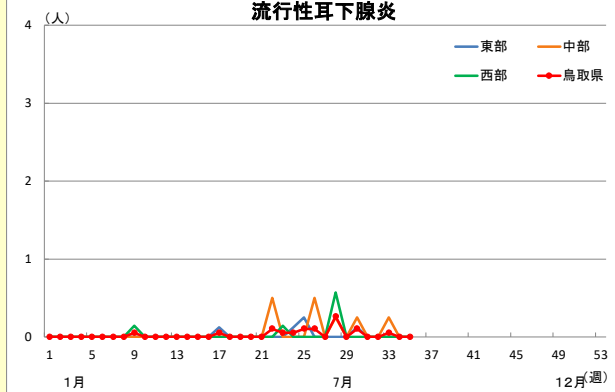
年次別発生状況(定点当たり)



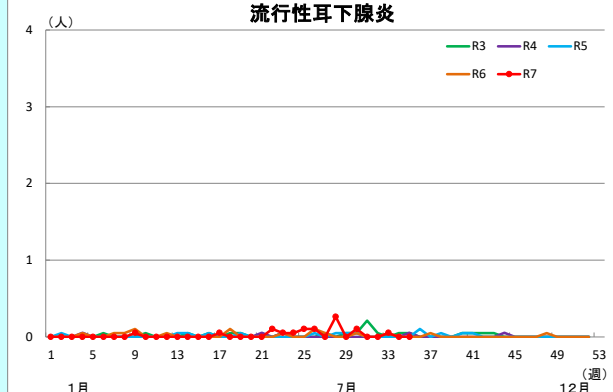
中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)



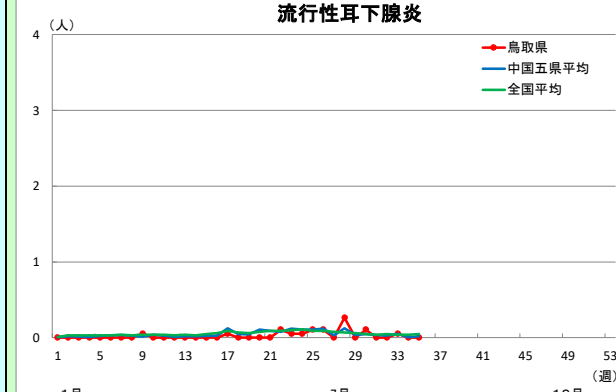
流行性耳下腺炎



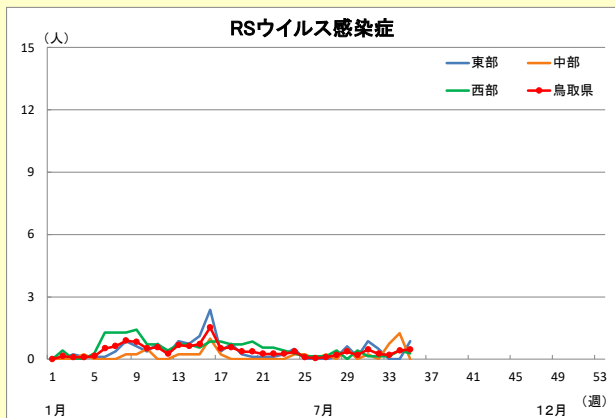
流行性耳下腺炎



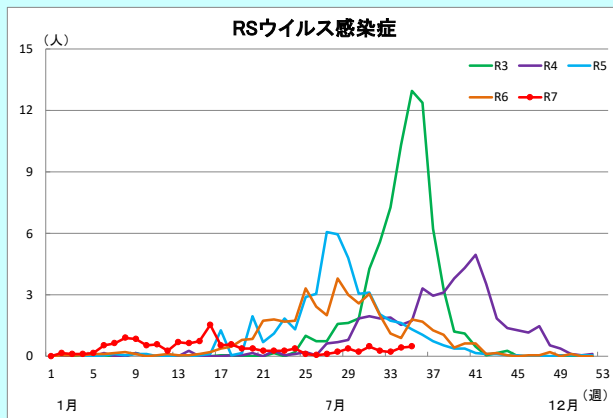
流行性耳下腺炎



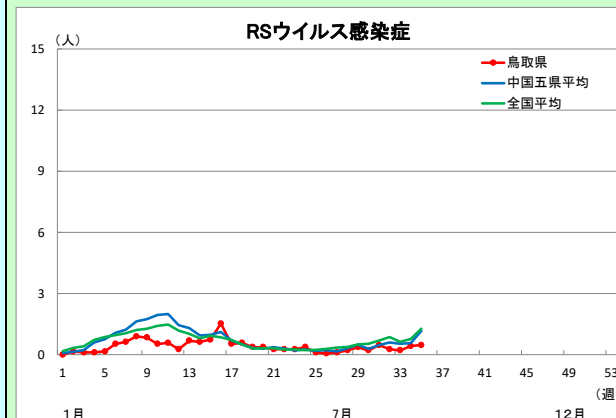
RSウイルス感染症



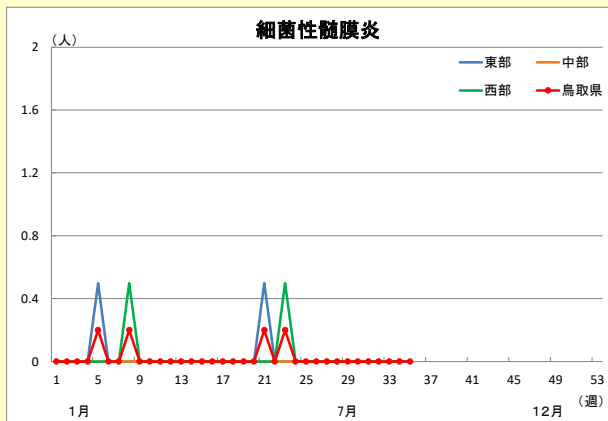
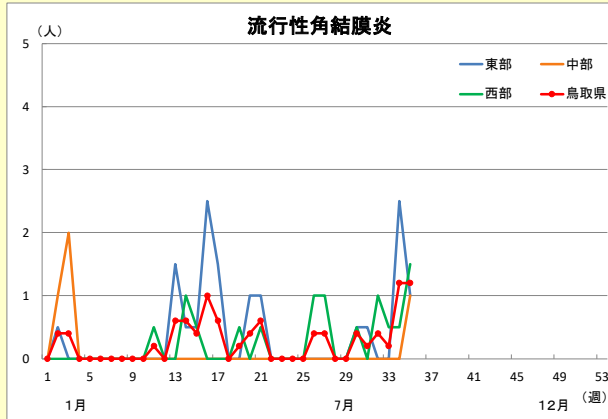
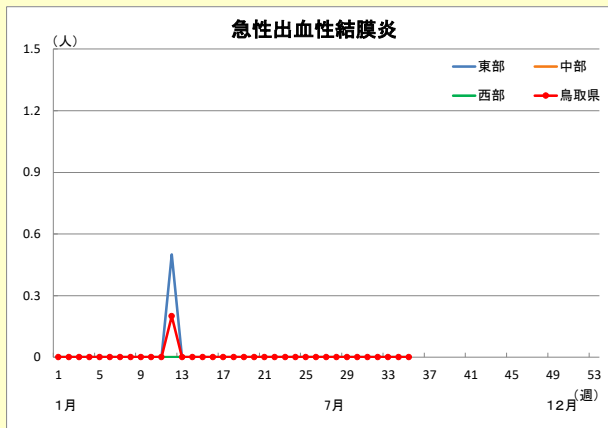
RSウイルス感染症



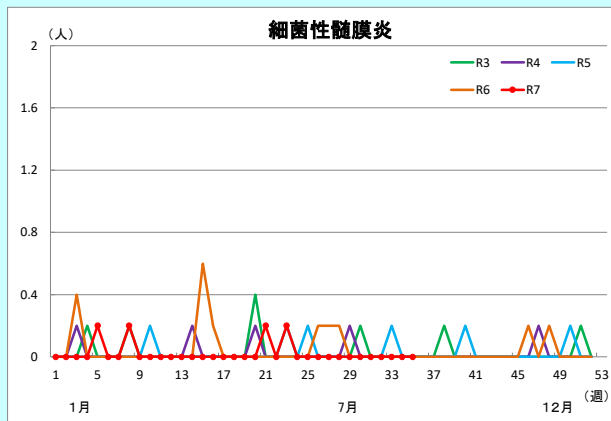
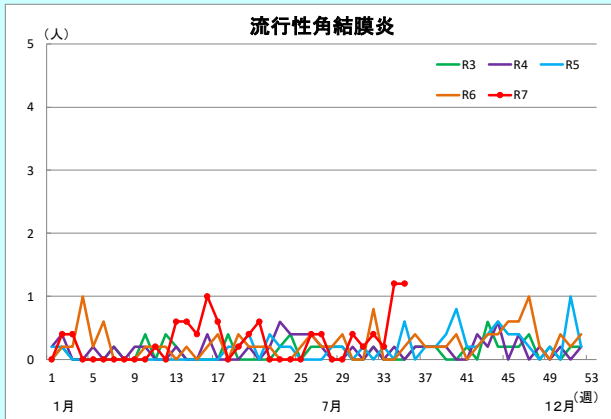
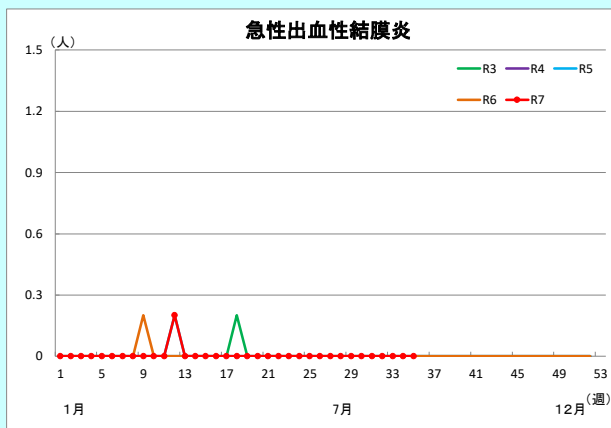
RSウイルス感染症



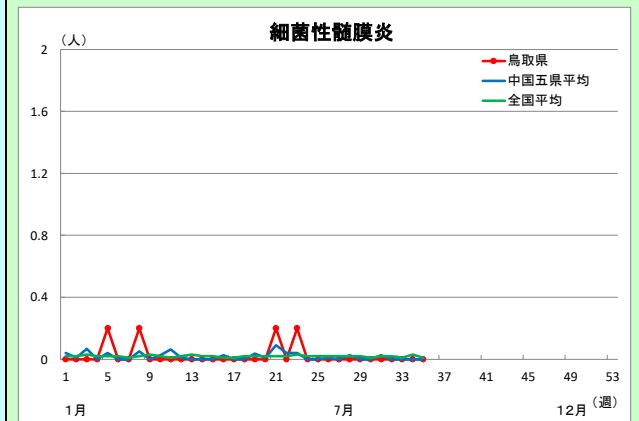
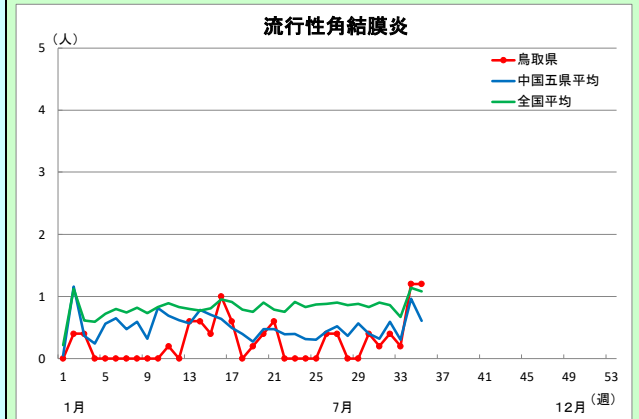
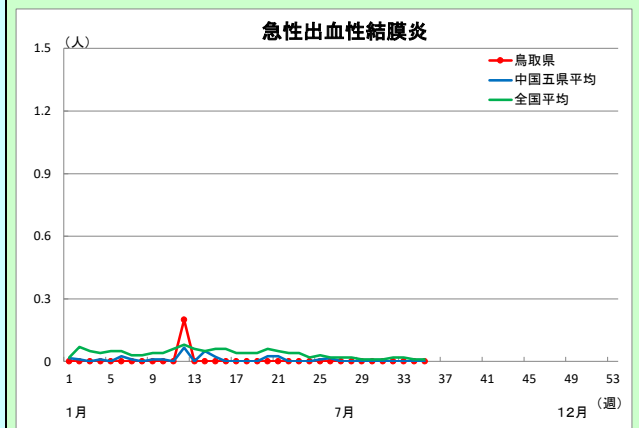
地区発生状況(定点当たり)



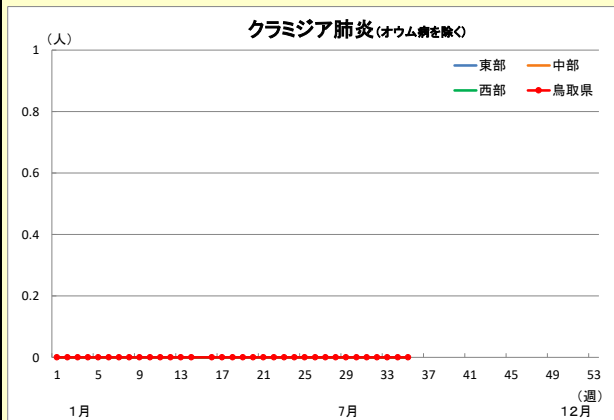
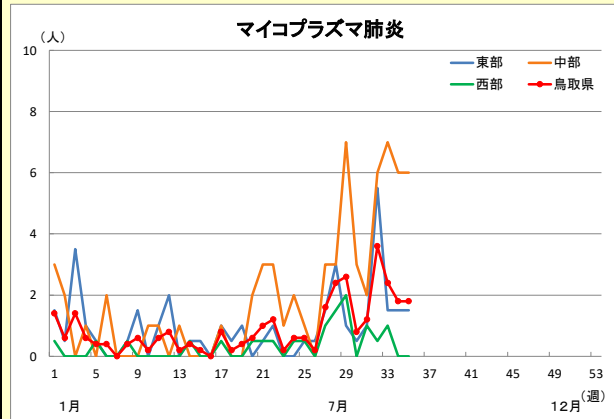
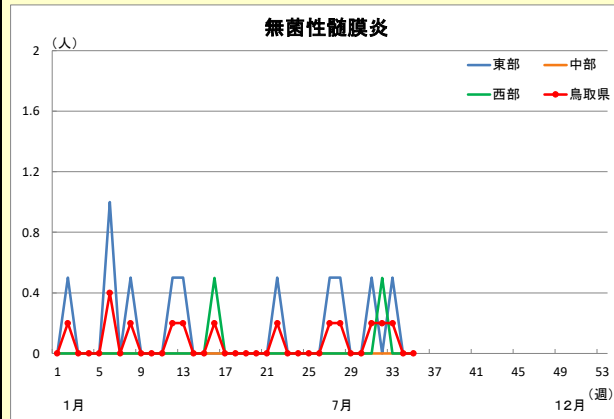
年次別発生状況(定点当たり)



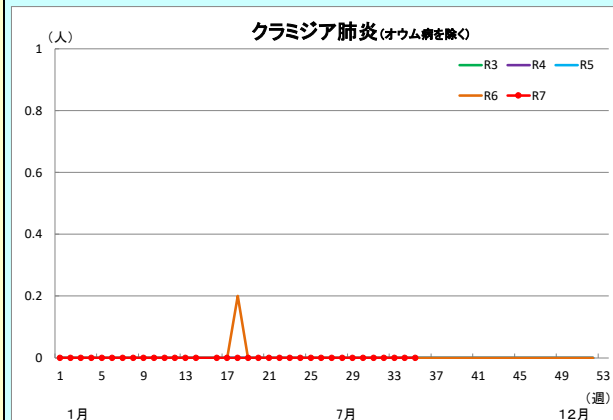
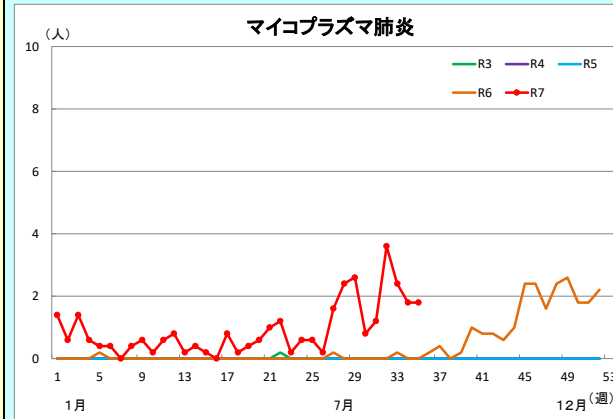
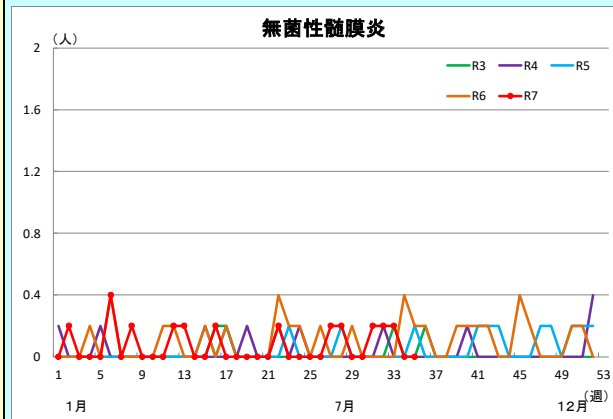
中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)



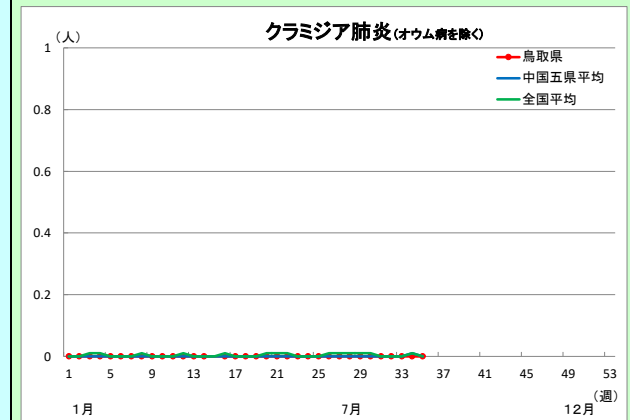
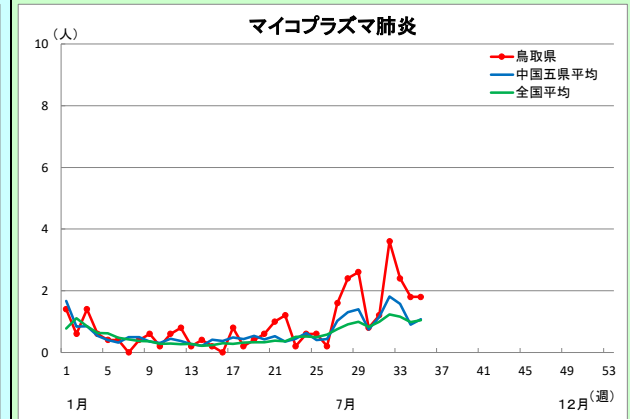
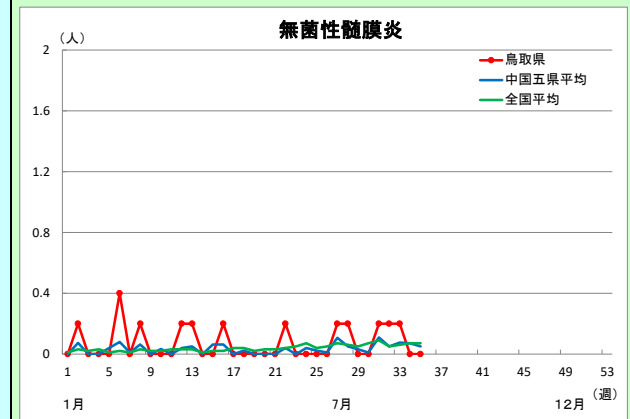
地区発生状況(定点当たり)



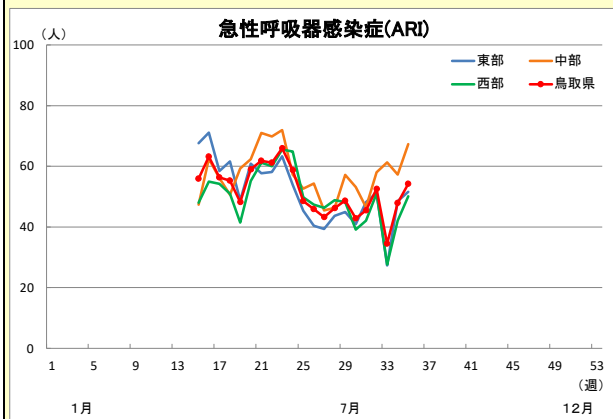
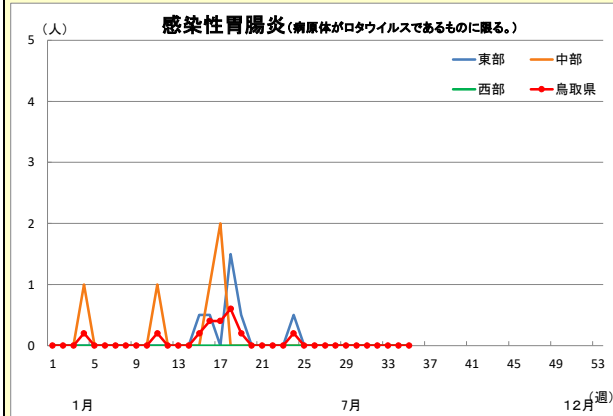
年次別発生状況(定点当たり)



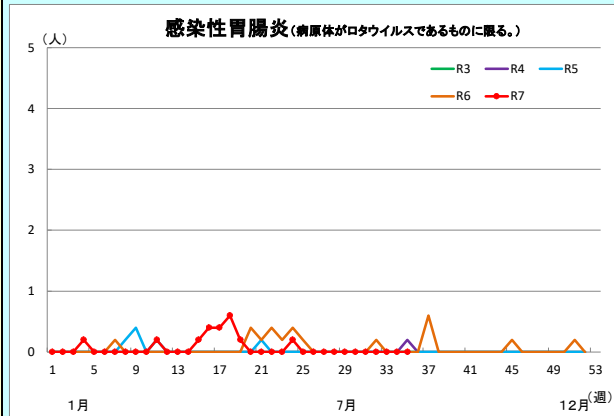
中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)



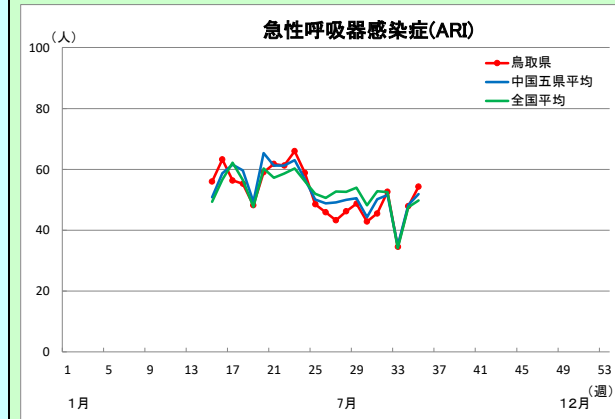
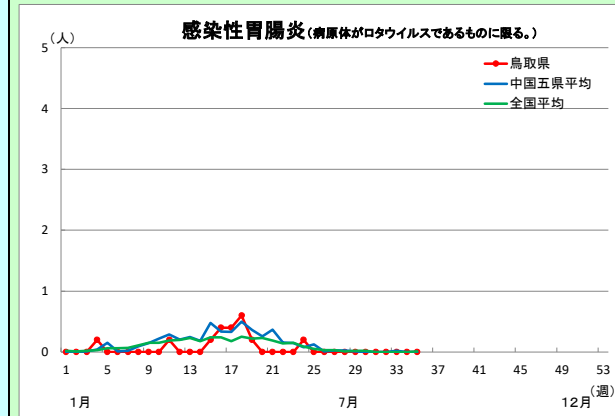
地区発生状況(定点当たり)



年次別発生状況(定点当たり)



中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)

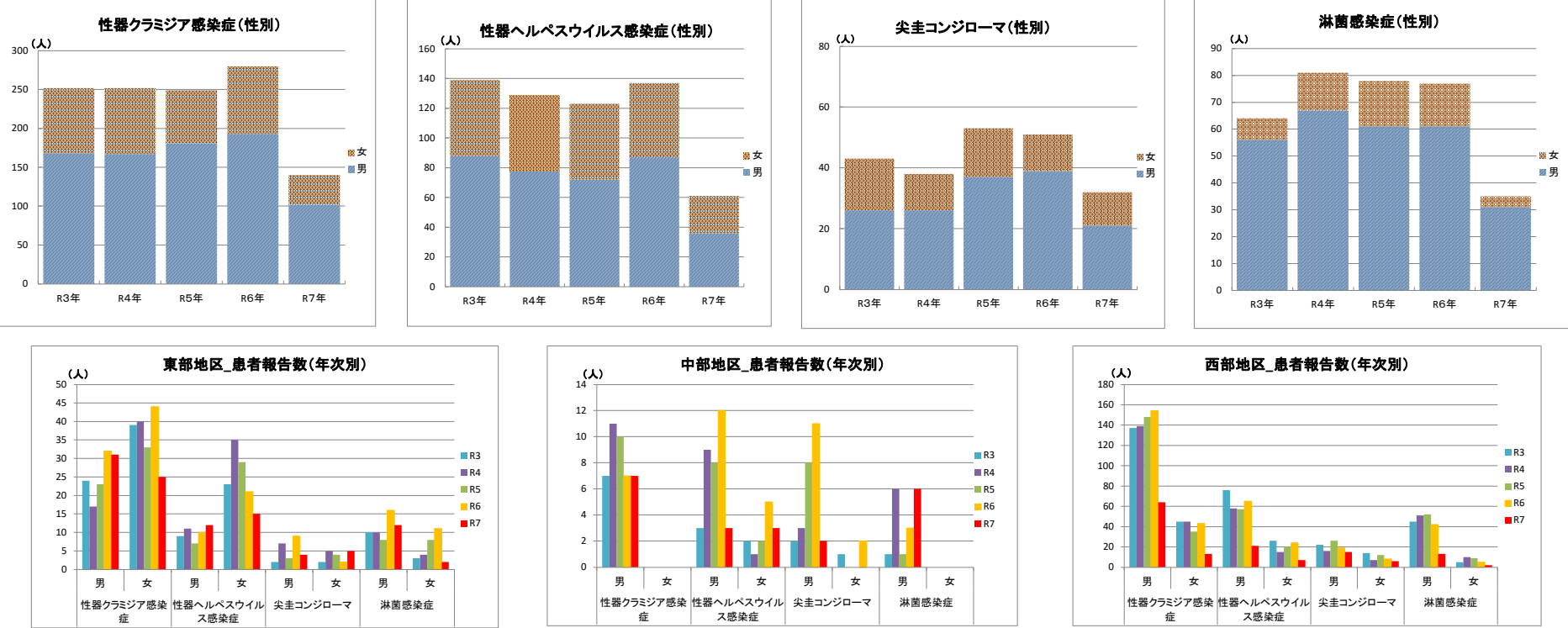


注)新型コロナウイルス感染症は、令和5年第18週(5/1～5/7)までは全数報告分のうち定点医療機関からの報告件数を元に算出。

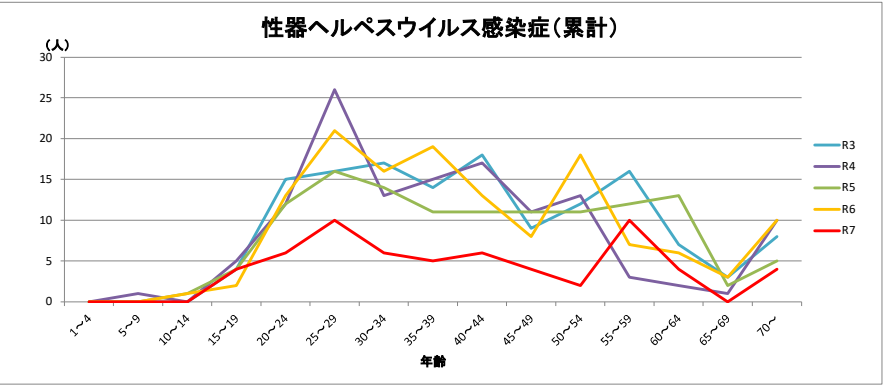
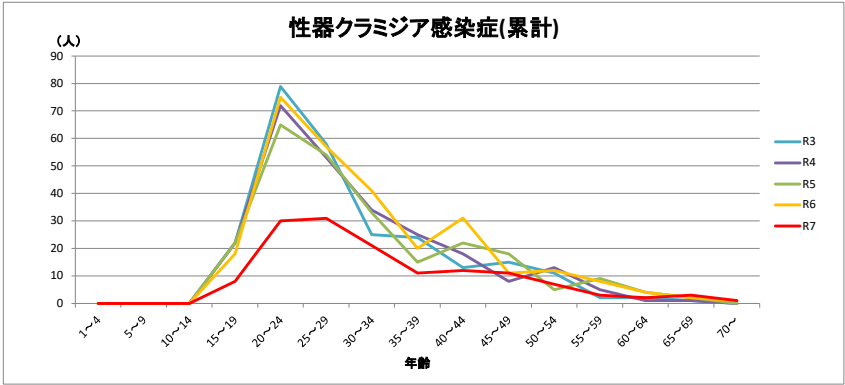
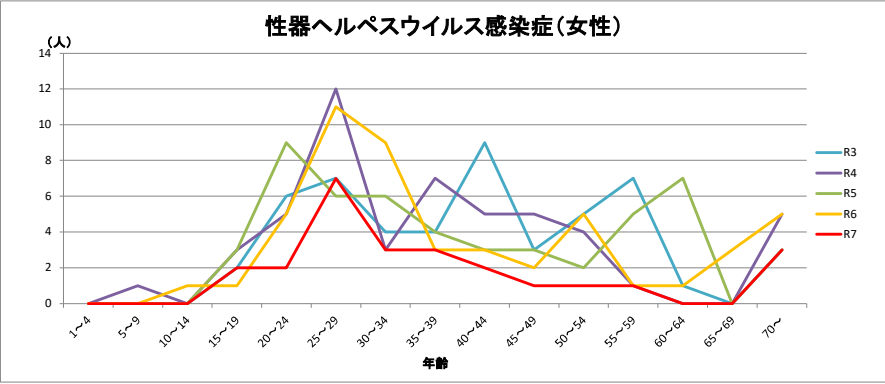
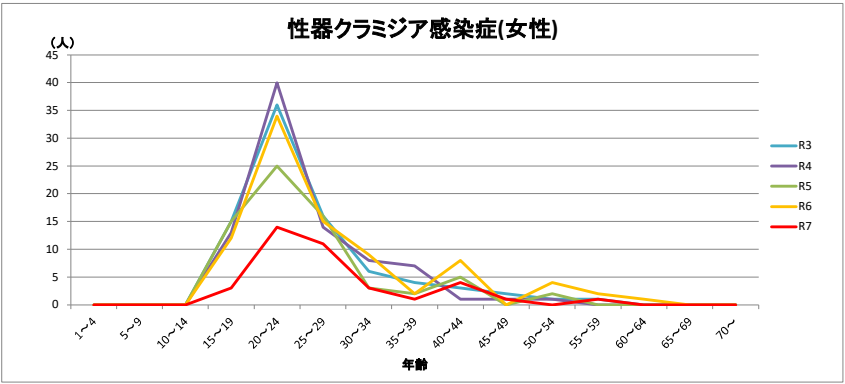
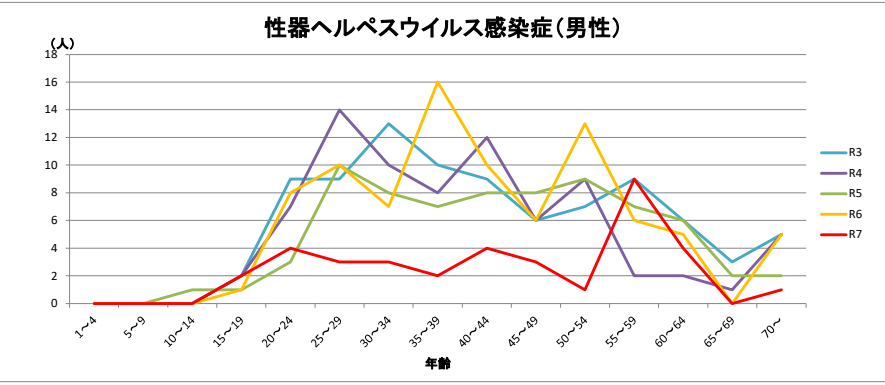
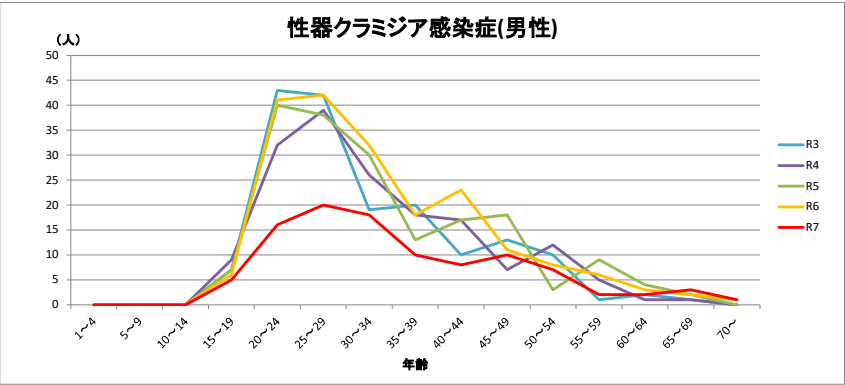
令和6年																						
定 点 数	疾 病 名	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
S	性器クラミジア感染症	9	6	15	10	11	21	27	10	37	14	8	22	16	5	21	16	5	21	21	12	33
T	性器ヘルペスウイルス感染症	7	6	13	5	2	7	10	4	14	6	3	9	7	3	10	6	6	12	7	3	10
D	尖圭コンジローマ	7	0	7	5	2	7	2	1	3	2	3	5	3	1	4	3	2	5	2	0	2
7	淋菌感染症	5	3	8	11	3	14	2	1	3	8	1	9	7	2	9	7	8	1	9	5	2
基 幹 5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7	1	8	4	2	6	8	6	14	10	2	12	4	3	7	4	4	8	4	3	7
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	0	3	1	0	0
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		8月			9月			10月			11月			12月			1～12月計			対前年累計比率		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
		27	5	32	15	5	20	10	10	20	16	7	23	12	3	15	193	87	280	107%	128%	112%
		15	7	22	7	4	11	8	7	15	3	2	5	6	3	9	87	50	137	121%	98%	111%
		2	0	2	6	0	6	2	2	4	0	1	1	5	0	5	39	12	51	105%	75%	96%
		2	7	9	3	0	3	1	1	2	1	1	2	3	1	4	61	16	77	100%	94%	99%
		4	2	6	8	1	9	9	4	13	4	6	10	68	35	103	103%	83%	95%			
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	8	0	8	133%	0%	80%
		0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	100%	—	100%

令和7年																						
定 点 数	疾 病 名	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
S	性器クラミジア感染症	9	3	12	15	4	19	13	6	19	10	9	19	21	3	24	11	7	18	14	5	19
T	性器ヘルペスウイルス感染症	7	4	11	3	2	5	2	4	6	3	4	7	7	1	8	2	4	6	6	5	11
D	尖圭コンジローマ	0	1	1	3	1	4	4	4	8	5	3	8	3	1	4	1	0	1	5	1	6
7	淋菌感染症	3	0	3	4	0	4	5	0	5	2	0	2	3	0	3	5	2	7	4	1	5
基 幹 5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5	2	7	9	5	14	5	5	10	6	5	11	3	2	5	6	1	7	7	1	8
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	0	1	1	0	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
		8月			9月			10月			11月			12月			8月計			対前年8月末累計比率		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
																	102	38	140	73%	61%	69%
																	36	25	61	57%	74%	63%
																	21	11	32	81%	122%	91%
																	31	4	35	58%	31%	53%
																	43	24	67	100%	109%	103%
																	3	1	4	60%	—	80%
																	1	0	1	100%	—	100%

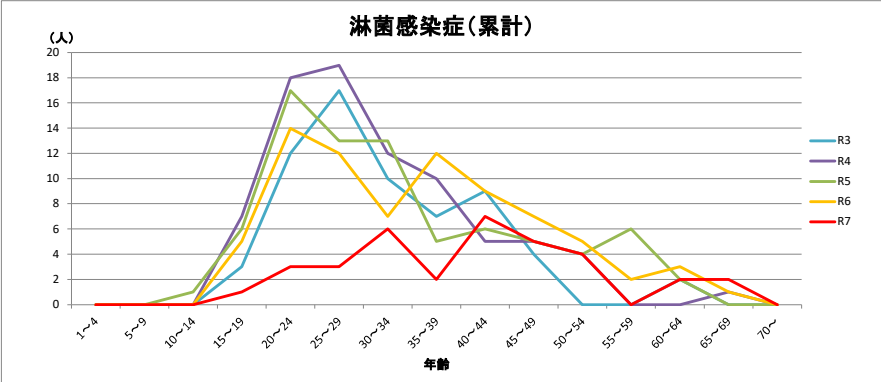
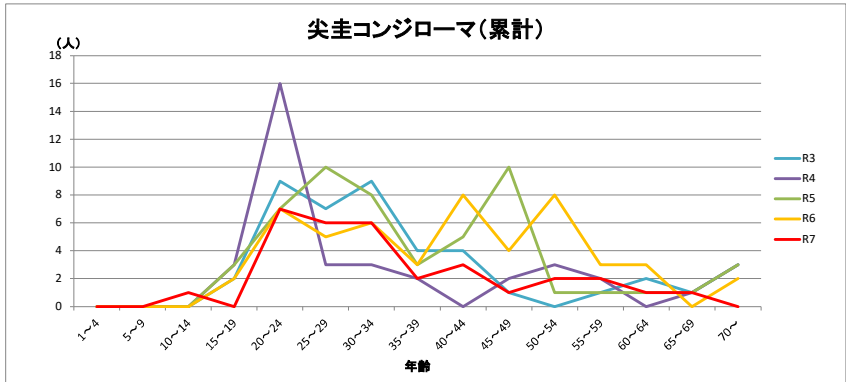
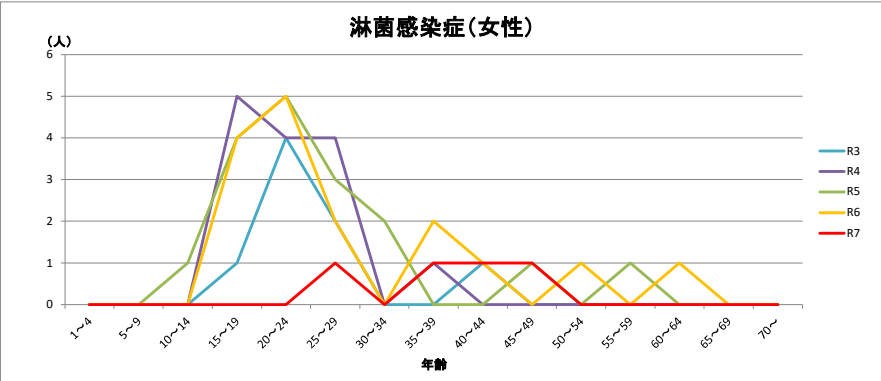
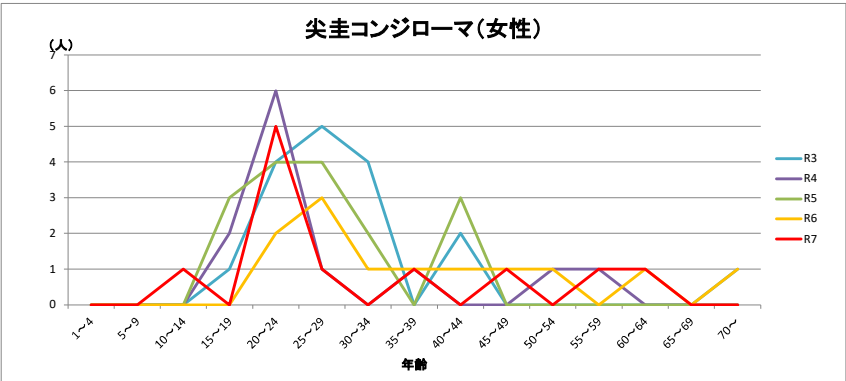
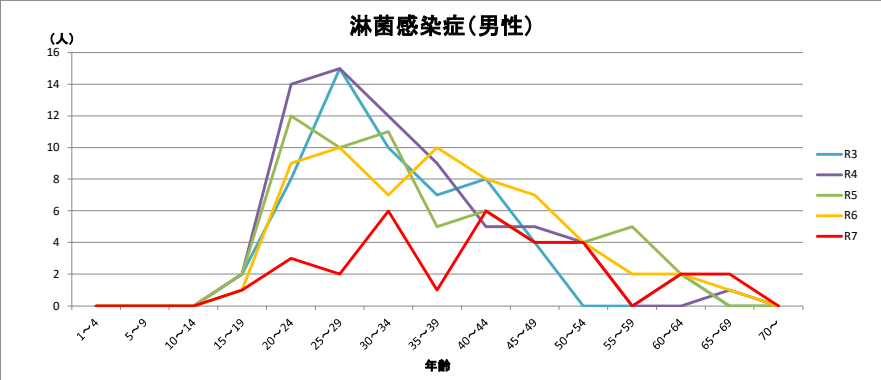
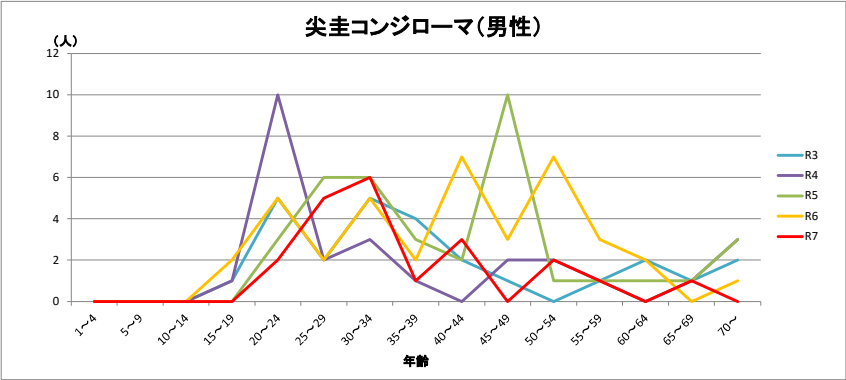
※各年毎に1月から12月の定点医療機関からの累計患者報告数です。



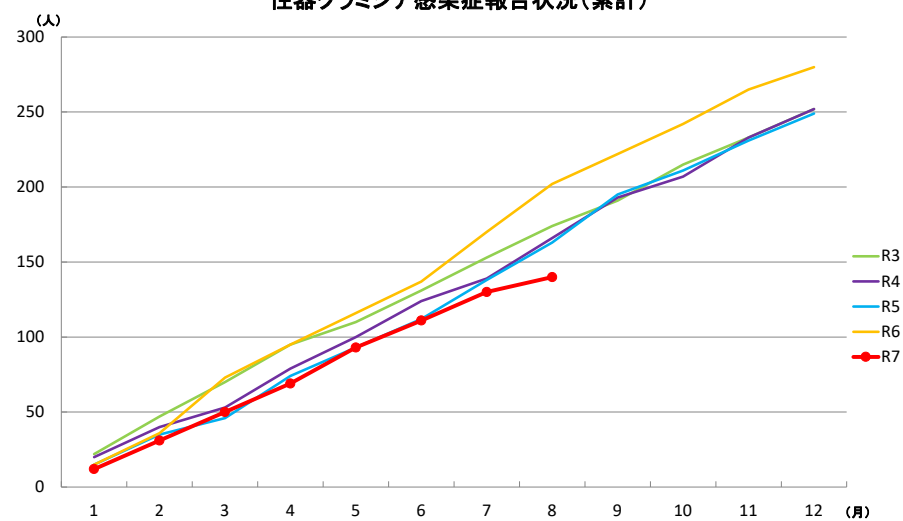
性感染症 年次別・年齢別・男女別累計グラフ



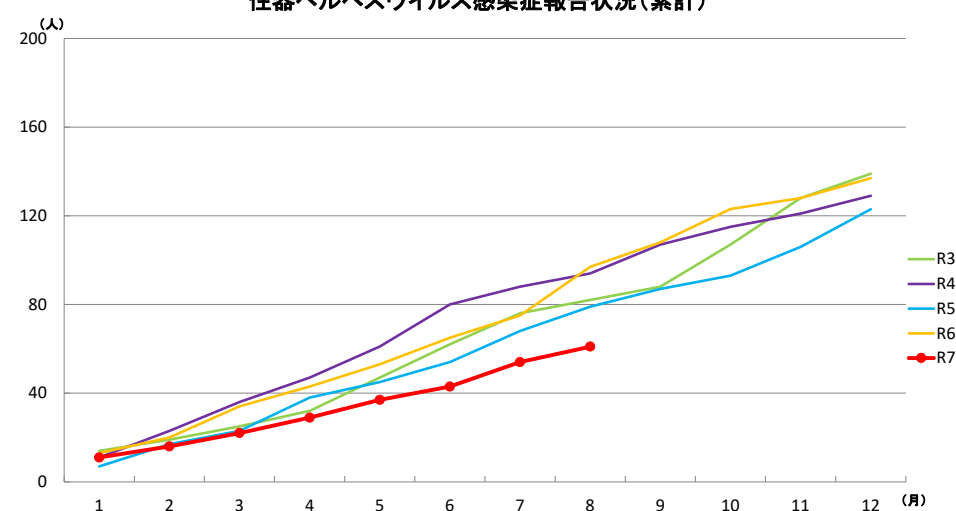
性感染症 年次別・年齢別・男女別累計グラフ



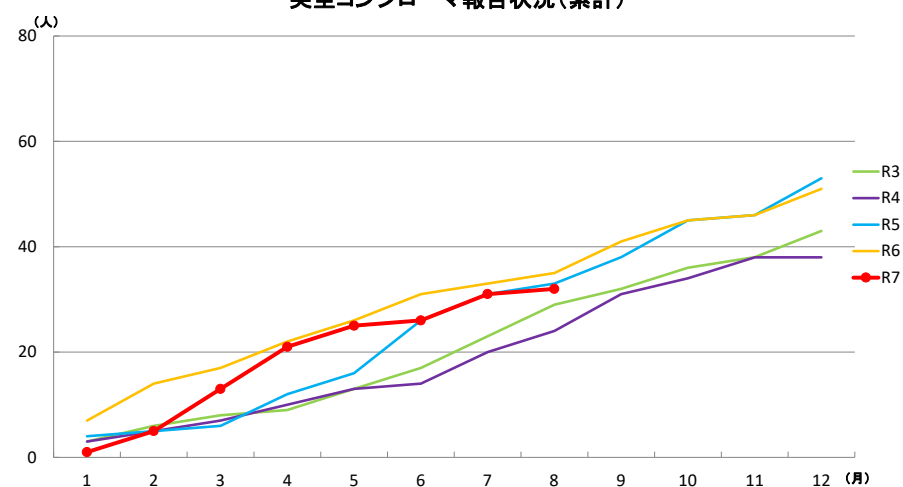
性器クラミジア感染症報告状況(累計)



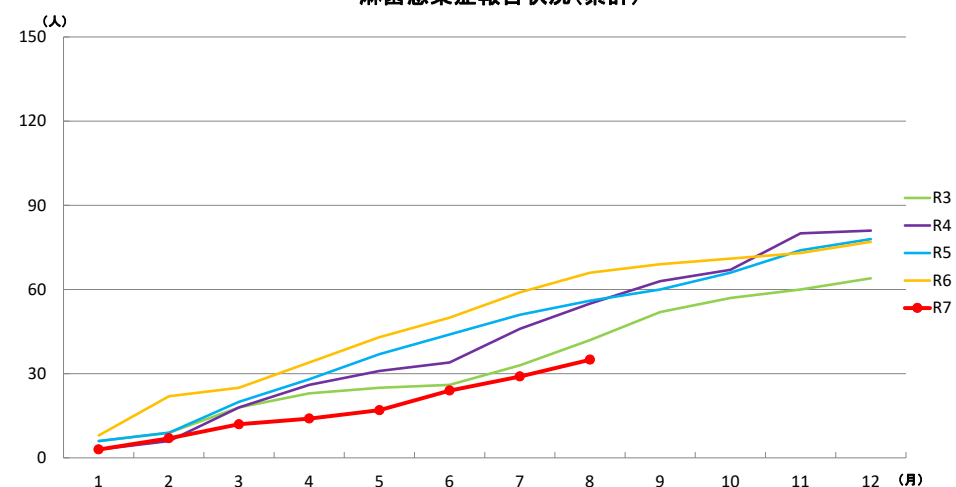
性器ヘルペスウイルス感染症報告状況(累計)

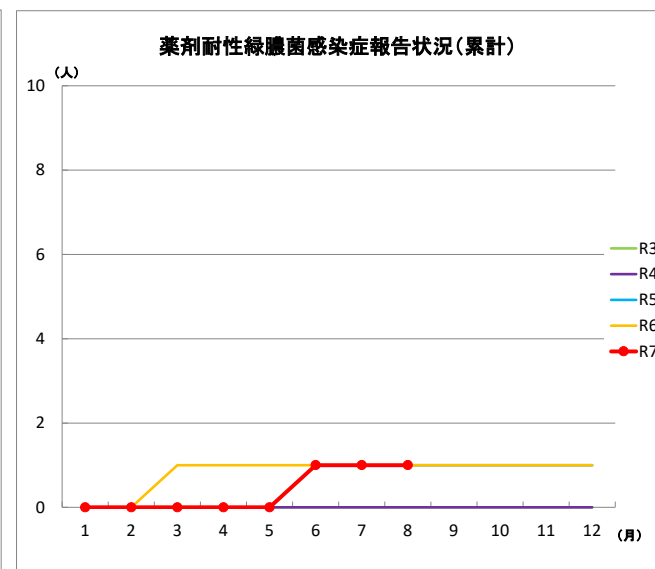
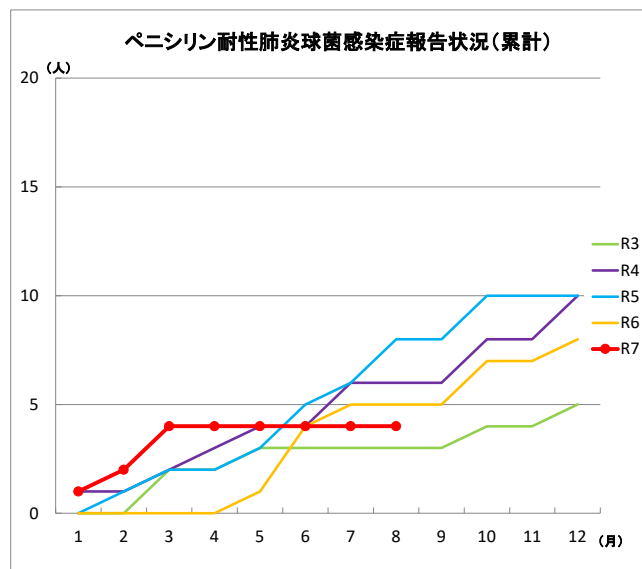
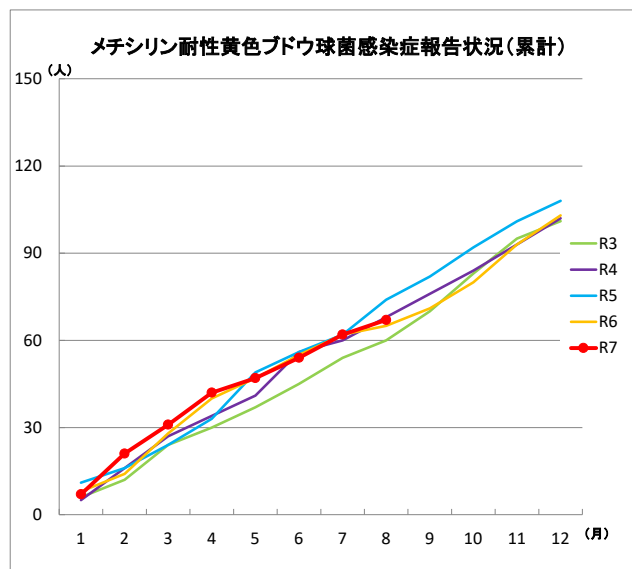
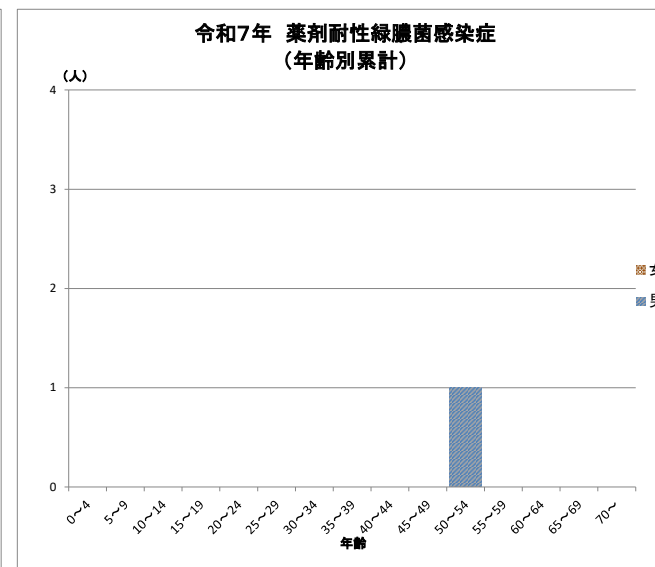
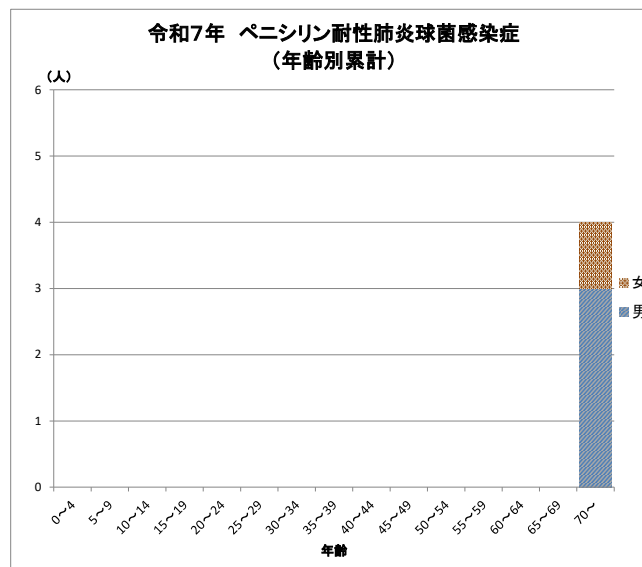
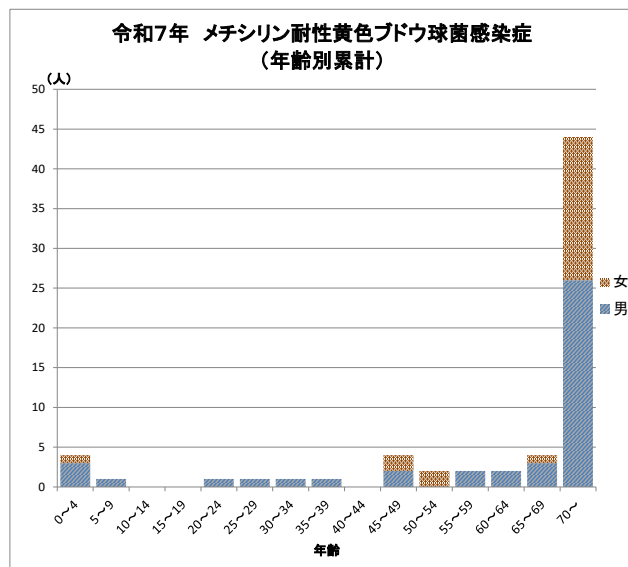


尖圭コンジローマ報告状況(累計)



淋菌感染症報告状況(累計)





令和7年8月31日 現在
※()は前年数値

[illegible]

疾 病 名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計		
													8月時点	年間	
コレラ													0	(0)	(0)
疑似症 ※再掲													0	(0)	(0)
細菌性赤痢													0	(0)	(0)
腸管出血性大腸菌感染症		(1)	(1)		(5)	(2)	1 (1)	2 (3)	(1)	(3)	(3)	(1)	3	(13)	(21)
腸チフス													0	(0)	(0)
パラチフス													0	(0)	(0)

疾 病 名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計		
													8月時点	年間	
マラリア													0	(0)	(0)
E型肝炎						1							1	(0)	(0)
A型肝炎									(1)			(1)	0	(0)	(2)
つつが虫病	1										(1)		1	(0)	(1)
日本紅斑熱					1 (1)	1	(1)	1 (2)	(2)	(2)			3	(4)	(8)
重症熱性血小板減少症候群					1	1 (1)			(1)				2	(1)	(2)
レジオネラ症	1	2	1	1	3 (2)	1 (1)	2 (1)	2	(1)	(1)	(2)	(1)	13	(4)	(9)
レプトスピラ症													0	(0)	(0)
デング熱													0	(0)	(0)
チクングニア熱													0	(0)	(0)

疾 病 名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計		
													8月時点	年間	
ア메ーバ赤痢				(1)			(1)			(1)	(2)		1	(2)	(5)
ウイルス性肝炎(E型・A型肝炎を除く)		1							(1)				1	(0)	(1)
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)													0	(0)	(0)
急性脳炎(ウエストナイル脳炎及び日本脳炎等を除く)	1 (1)	1	1	(1)			1			(1)		(3)	4	(2)	(6)
クリプトスポリジウム症													0	(0)	(0)
クロイツフェルト・ヤコブ病			(1)										0	(1)	(1)
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 (3)		1	(2)	1 (1)	1		(1)		(3)	(1)		4	(7)	(11)
後天性免疫不全症候群						2			(1)				2	(0)	(1)
無症候性キャリア ※再掲													0	(0)	(0)
AIDS ※再掲									(1)				0	(0)	(1)
その他						2							2	(0)	(0)
侵襲性インフルエンザ菌感染症			(1)		1	1 (1)					(1)		2	(2)	(3)
侵襲性髄膜炎菌感染症													0	(0)	(0)
侵襲性肺炎球菌感染症	5 (1)	1	1 (2)	(3)	3 (3)		2	2 (1)		(1)	(1)	(1)	14	(10)	(13)
水痘(入院例に限る。)					(1)		(1)						0	(2)	(2)
梅毒	9 (2)	2 (5)	2 (1)	3 (2)	(2)	(5)	5 (7)	1 (6)	(2)	(5)	(2)	(2)	22	(30)	(41)
播種性クリプトコックス症	1	1	1	(1)									3	(1)	(1)
破傷風								(1)					0	(1)	(1)
薬剤耐性アシネトバクター感染症													0	(0)	(0)
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症				(1)	(2)				(1)				0	(3)	(4)
ジアルジア症													0	(0)	(0)
百日咳	28 (5)	44 (6)	74 (2)	120 (1)	98 (1)	100 (7)	104 (37)	47 (55)	(54)	(113)	(59)	(43)	615	(114)	(383)
麻しん					1								1	(0)	(0)
風しん													0	(0)	(0)

腸管出血性大腸菌感染症の発生状況

① 月別件数

区 分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	
													8月時点	年間
令和7年							1 (1)	2					3 (1)	3 (1)
令和6年		1	1		5 (2)	2 (1)	1 (1)	3	1 (1)	3 (1)	3	1	13 (4)	21 (6)
令和5年						1		5	9 (3)	2 (2)		2 (1)	6 (0)	19 (6)
令和4年		2 (2)				1	2	3			3 (1)	3	8 (2)	14 (3)
令和3年	1		3 (2)	1 (1)	2 (1)	2 (1)	1 (1)						10 (6)	10 (6)
令和2年			1		2 (1)	7 (1)	2	3 (2)	7 (4)	3 (1)		1	15 (4)	26 (9)
令和元年		1	1 (1)		6 (1)	1	2		4 (1)	3 (2)	4	2 (2)	11 (2)	24 (7)
平成30年					3	1	4 (2)	9	4	1			17 (2)	22 (2)
平成29年	1 (1)			1	1 (1)	7 (3)	5 (2)	1			4 (3)	1 (1)	16 (7)	21 (11)
平成28年						5 (4)	3 (1)	6 (1)	1			1 (1)	14 (6)	16 (7)

② 血清型別件数

区 分	O8	O26	O29	O55	O103	O111	O125	O128	O145	O146	O157	型不明	計
令和7年					1 (1)						2		3 (1)
令和6年		1		2 (2)		2				1 (1)	13 (1)	2 (2)	21 (6)
令和5年		1 (1)									17 (4)	1 (1)	19 (6)
令和4年					3					2 (2)	8	1 (1)	14 (3)
令和3年					4 (2)					1 (1)	3 (1)	2 (2)	10 (6)
令和2年	1	4 (2)	1		4 (2)	3 (1)	1 (1)	1		1 (1)	7	3 (2)	26 (9)
令和元年					3 (1)	4 (1)					15 (3)	2 (2)	24 (7)
平成30年		2			3				1		16 (2)		22 (2)
平成29年		1			2 (1)	4 (3)				1 (1)	10 (3)	3 (3)	21 (11)
平成28年		1 (1)									14 (5)	1 (1)	16 (7)

③ 年齢別件数

区 分	～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
令和7年				1		2 (1)						3 (1)
令和6年	3	3	1	3 (2)	5 (1)		2 (1)	1 (1)	2 (1)	1		21 (6)
令和5年	1	2 (1)	1	1	4 (1)	2 (1)	4 (3)	2			2	19 (6)
令和4年	5	1	2	1	1	2 (1)				2 (2)		14 (3)
令和3年	1		1 (1)		1 (1)			1 (1)	1 (1)	3 (2)	2	10 (6)
令和2年	7	2	2	2	1 (1)	4 (4)	3 (1)	3 (3)			2	26 (9)
令和元年	9 (2)	2			4 (3)	2		1 (1)	3 (1)	3		24 (7)
平成30年	2	2			10 (1)	3 (1)	1	2	1		1	22 (2)
平成29年	3 (1)	1	2 (1)	2 (1)		2 (2)	2 (2)	4 (3)	4 (1)		1	21 (11)
平成28年	4	4 (3)		1	2 (1)	3 (2)	1 (1)				1	16 (7)

④ 地区別件数

区 分	東部地区	中部地区	西部地区	計
令和7年		1	2 (1)	3 (1)
令和6年	2 (1)	6	13 (5)	21 (6)
令和5年	3 (1)	7 (1)	9	19 (6)
令和4年	5 (1)	6	3 (2)	14 (3)
令和3年	4 (2)	3 (2)	3 (2)	10 (6)
令和2年	3	15 (5)	8 (4)	26 (9)
令和元年	6 (2)	14 (3)	4 (1)	24 (6)
平成30年	7	5	10 (2)	22 (2)
平成29年	1	8 (4)	12 (7)	21 (11)
平成28年	2 (1)	12 (5)	2 (1)	16 (7)

鳥取県病原微生物検出情報

(令和7年8月検出分 検体採取 令和7年7月及び8月)

令和7年9月12日

鳥取県衛生環境研究所

1 急性呼吸器感染症

臨床診断名が急性呼吸器感染症の検体70件について検査を実施したところ、以下のとおりの結果であった。

検査対象（ウイルス）

ライノ、メタニューモ、インフルエンザA型及びB型、パラインフルエンザ1-4、RS-A型及びB型、ボカ、SARS-CoV-2、エンテロ、アデノ、コロナNL63（※）

検査対象（細菌）

百日咳菌、*Bordetella holmesii*、*B. parapertussis*（※）、マイコプラズマ（※）

※印は5月21日搬入検体分より実施。

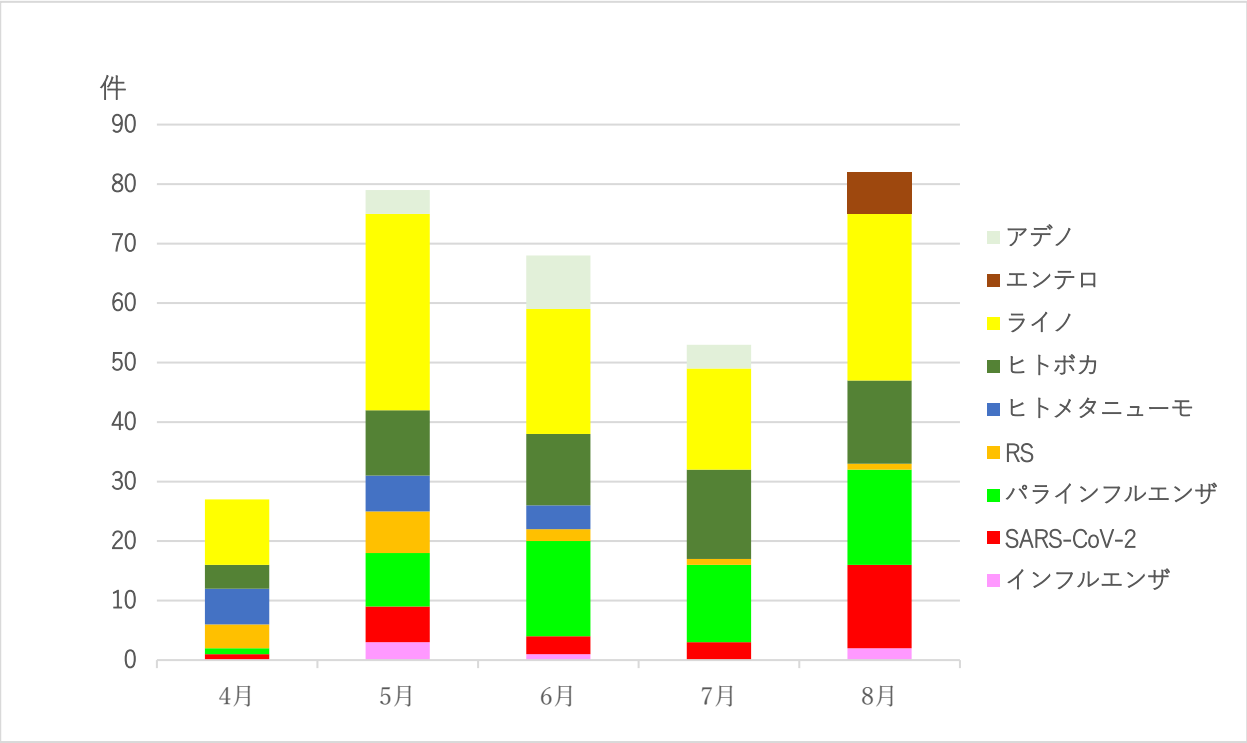
検出結果

70件中58検体（83％）から上記対象病原体が検出された。内訳は、ライノ：28件、ボカ：14件、SARS-CoV-2：14件、パラインフルエンザ2：1件、パラインフルエンザ3：2件、パラインフルエンザ4：13件、エンテロ：7件、マイコプラズマ：2件、RS-B型：1件、インフルエンザA型：1件、インフルエンザB型：1件、コロナNL63：1件であった。4月から7月検出分と合わせた年齢別検出数は表1のとおり（ただし、検出件数は重複検出を含む。）。

表1. 急性呼吸器感染症の病原体、年齢別検出件数（令和7年4月～8月検出分）

病原体	年齢別検出数（ ）は標本数を示す									
	0-4 (127)	5-9 (19)	10-19 (7)	20-39 (18)	40-59 (43)	60-69 (37)	70-79 (27)	80-89 (16)	90-99 (7)	合計 (301)
ライノ	75	9	4	6	9	3	4	1		111
ボカ	52	1				1	1	1		56
ヒトメタニューモ	9				1	4	2			16
RS-A					1		2			3
RS-B	9	1				1			1	12
SARS-CoV-2	5	1		3	3	6	5	4		27
パラインフルエンザ1	1						1			2
パラインフルエンザ2	1									1
パラインフルエンザ3	15				6	4	2	3	2	32
パラインフルエンザ4	17	1			1	2				21
アデノ	14	1		2						17
エンテロ	7									7
インフルエンザA型					1					1
インフルエンザB型	1		2	1	1					5
百日咳		1				1				2
コロナNL63	2						1			3
マイコプラズマ	2	1	1		1					5
検出せず	11	5	1	11	19	15	11	7	4	84

図 1. 月別主要ウイルス検出状況（令和 7 年 4 月～8 月検出分）



SARS-CoV-2 の系統は表 2 に示すとおり、NB. 1. 8. 1 が 3 件、PQ. 2 が 5 件、PQ. 11 が 1 件、PQ. 17 が 3 件、XFG が 1 件、XFG. 2 が 1 件であった。国立感染症研究所が公開している全国のゲノムサーベイランスによる系統別検出状況では、NB. 1. 8. 1 系統が増加を続けており、PQ. 2 や PQ. 11、PQ. 17 も NB. 1. 8. 1 系統である。

NB. 1. 8. 1 系統は、WHO の指定する監視下の変異株であり、NB. 1. 8. 1 は、2025 年 2 月以降東南アジアで増加している系統で、今後の動向に留意が必要である。

表 2. SARS-CoV-2 ゲノム解析結果（令和 7 年 8 月検出分）

検体採取年月日	年齢	型別
R7. 7. 24	2	NB. 1. 8. 1
R7. 7. 28	2	NB. 1. 8. 1
R7. 8. 4	68	NB. 1. 8. 1
R7. 7. 22	80	PQ. 2
R7. 7. 28	61	PQ. 2
R7. 8. 1	80	PQ. 2
R7. 8. 13	83	PQ. 2
R7. 8. 18	72	PQ. 2
R7. 8. 13	66	PQ. 11
R7. 7. 18	67	PQ. 17
R7. 8. 6	70	PQ. 17
R7. 8. 19	61	PQ. 17
R7. 8. 19	36	XFG
R7. 7. 26	73	XFG. 2

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の 12 件について検査を行ったところ、サポウイルスが 3 件検出された。ノロウイルスは検出されなかった。

3 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

臨床診断名が A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の 6 件について検査を行ったところ、A 群溶血性レンサ球菌が 1 件分離され、B3264 型であった。B3264 型は咽頭炎で多くみられる型である。

4 ヘルパンギーナ

臨床診断名がヘルパンギーナの 3 件について検査を行ったところ、エンテロウイルスが 1 件検出された。

5 RS ウイルス感染症

臨床診断名が RS ウイルス感染症の 2 件について検査を行ったところ、いずれも RS ウイルス B 型が検出された。

6 手足口病

臨床診断名が手足口病の 1 件について検査を行ったところ、エンテロウイルスは検出されなかった。

7 水痘

臨床診断名が水痘の 1 件について検査を行ったところ、水痘帯状疱疹ウイルスが検出された。

8 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の 3 件について検査を行ったところ、いずれもアデノウイルスが検出された。

9 伝染性紅斑

臨床診断名が伝染性紅斑の 1 件について検査を行ったところ、パルボウイルスは検出されなかった。

月別ウイルス等分離・検出状況（令和6年4月～令和7年8月）

7 1 2 3 2 10 5 10 16 56 11 5 12 73 75 99 91 24 0 0 0 0 402